

◆重点普及課題

モズク種培養技術の普及（沖縄本島地区）

水産業改良普及センター 與那嶺盛次 中村勇次

1. 目的

モズク養殖は、本県沿岸漁業の基幹として重要な地位を占めている。モズク養殖では、母藻やシート採苗による種付けも行われているが、母藻での種付けでは母藻の確保や種付け時期が限定されるため、モズク培養種による種付けを普及するため培養種の配布や寒天保存等の講習会を実施した。

2. 活動内容

1) モズク培養種の配布及び培養技術指導

(1) 実施地区：本島中南部地区

平成22年7月27日モズク類培養種の配布は、平成23年度をもって終了することと今年度は漁協単位で配布することを通知した。8月9日に水産海洋研究センターの須藤研究員からオキナワモズクとイトモズクの培養種の提供を受け、培養を開始した。

平成22年9月より普及センター（中南部地区漁協）、本部駐在（北部地区漁協）から配布を開始した。普及センターにおいては、オキナワモズクを久米島漁協、渡嘉敷漁協、那覇市沿岸漁協、座間味村漁協、糸満漁協、那覇地区漁協、沖縄市漁協、与那城町漁協、読谷村漁協、勝連漁協、知念漁協等11漁協の養殖グループや漁業者に52ℓを配布した。イトモズクは、久米島漁協、沖縄市漁協、与那城町漁協、知念漁協4漁協の養殖グループや漁業者に20ℓを配布した。

(2) 実施地区：本島北部地区

本部駐在においては、オキナワモズクを伊江漁協、国頭漁協、名護漁協、本部漁協、伊平屋村漁協、羽地漁協、伊是名村漁協、金武漁協、宜野座村漁協の9漁協に40ℓを配布した。イトモズクは、国頭漁協、名護漁協、伊平屋村漁協、金武漁協4漁協の養殖グループや漁業者に16ℓを配布した。

配布後、読谷村漁協、知念村漁協、那覇市

沿岸漁協、勝連漁協、伊江漁協、金武漁協、名護漁協（辺野古地区）、国頭漁協、宜野座村漁協、伊是名村漁協の養殖グループや漁業者に培養技術指導の巡回指導を実施した。中南部地区の勝連漁協や知念漁協では、主にシート採苗の母藻での種付けであるため、今後とも培養種による種付けを指導する。

2) モズク種の採苗及び寒天保存講習会開催

平成22年9月6日モズク講習会を沖縄市産業交流センター（中南部地区のモズク生産者等30名参加）、9月8日名護市中央公民館（北部地区のモズク生産者等14名参加）で開催した。モズク種採苗・培養保存方法について説明した後、実際に寒天培地を作製してモズク種を寒天培地で植え継いだ。

上記同様の小規模な講習会を6月24日日本部漁協、10月12日伊是名村漁協、11月17日伊平屋村漁協で実施した。

3. 今後の課題

- (1) モズク種の拡大培養技術の普及
- (2) モズク種採苗方法及び寒天保存方法の普及



モズク種の培養



中南部モズク講習会の様子



モズク種の寒天培地植え継ぎ(中南部)



北部部モズク講習会の様子



モズク種の寒天培地作製(北部)